新県民体育館整備事業基本・実施設計委託業務
公募型プロポーザルの審査結果について

１　選定結果

新県民体育館整備事業基本・実施設計委託業務公募型プロポーザル審査委員会（以下、「審査委員会」という。」において、当該委託業務のプロポーザルについて審査を行い、次のとおり、契約候補者を選定した。

【契約候補者】

梓・みやび設計共同企業体

（代表者：株式会社梓設計関西支社　構成員：株式会社みやび設計）

２　審査委員会の開催経過

（１）一次審査委員会

日程：令和８年８月 31 日（月）、９月１日（火）

場所：こうち勤労センター７階会議室

委員：５名出席

概要：一次提案書の提出者９者について書面審査を実施し、５者を一次審査通過者として選定した。

（２）二次審査委員会

日程：令和８年 10 月 22 日（木）

場所：こうち勤労センター７階会議室

委員：５名出席

概要：一次審査通過者５者によるプレゼンテーション及び質疑を実施し、契約候補者及び次点者を選定した。

３　審査結果の詳細

（１）一次審査委員会

【審査結果】

審査の項目	１位	２位	３位	４位	５位	６位	７位	８位	９位
	Ａ社	Ｂ社	Ｃ社	Ｄ社	Ｅ社	Ｆ社	Ｇ社	Ｈ社	Ｉ社
業務実績	195 点	190 点	195 点	180 点	155 点	180 点	155 点	150 点	170 点
業務遂行能力	331 点	302 点	265 点	270 点	294 点	260 点	282 点	282 点	271 点
地理的条件	30 点	30 点	30 点	30 点	30 点	30 点	30 点	30 点	10 点
総合得点	556 点	522 点	490 点	480 点	479 点	470 点	467 点	462 点	451 点

【審査の項目】

総合得点は 675 点（審査委員５名、審査委員１人あたり 135 点）とし、審査項目ごとの審査委員１人あたりの配点は次のとおり。

審査の項目		配点
業務実績	参加者の業務実績	10
	参加者の受賞実績	5
	管理技術者の経験	5
	管理技術者の業務実績	5
	主任技術者（建築意匠担当）の経験	2
	主任技術者（建築意匠担当）の業務実績	2
	主任技術者（建築構造担当）の経験	2
	主任技術者（建築構造担当）の業務実績	2
	主任技術者（電気設備担当）の経験	2
	主任技術者（電気設備担当）の業務実績	2
	主任技術者（機械設備担当）の経験	2
	主任技術者（機械設備担当）の業務実績	2
	管理技術者の受賞実績	2
	主任技術者（建築意匠担当）の受賞実績	2
業務遂行能力	工程計画	20
	実施体制	20
	実施方針	40
地理的条件		10
合計		135

（２）二次審査委員会

【審査点数】

審査の項目		候補者	次点者	３位	４位	５位
		梓・みやび設計共同企業体	Ａ社	Ｂ社	Ｃ社	Ｄ社
本業務の考え方	基本計画の理解度・実現性	167 点	152 点	154 点	143 点	146 点
	新県民体育館を核としたにぎわいの創出	85 点	81 点	81 点	67 点	71 点
	施設利用者や観客の使いやすさ・安全性を考慮した施設配置	83 点	76 点	72 点	74 点	69 点
	駐車場の必要台数の確保及び周辺の交通渋滞緩和対策	88 点	73 点	69 点	78 点	72 点
	イベント開催前後の来場者のスムーズで安全な動線の確保	77 点	72 点	68 点	71 点	65 点
	地震等災害に備えた防災対策	83 点	80 点	75 点	73 点	69 点
	LCC（ライフサイクルコスト）の縮減策	78 点	83 点	62 点	60 点	64 点
	効果的な住民説明	41 点	35 点	35 点	34 点	34 点
経費見積	見積金額	25 点	25 点	25 点	25 点	25 点
	見積金額を抑えるための工夫	15 点	20 点	15 点	20 点	25 点
地理的条件		30 点	30 点	30 点	30 点	30 点
合計		772 点	727 点	686 点	675 点	670 点

※一次審査委員会のＡ社～Ｄ社と二次審査委員会のＡ社～Ｄ社は必ずしも一致しない。

【審査の項目】

総合得点は 950 点（審査委員５名、審査委員１人あたり 190 点）とし、審査項目ごとの審査委員１人あたりの配点は次のとおり。

審査の項目		配点
本業務の考え方	基本計画の理解度・実現性	40
	新県民体育館を核としたにぎわいの創出	20
	施設利用者や観客の使いやすさ・安全性を考慮した施設配置	20
	駐車場の必要台数の確保及び周辺の交通渋滞緩和対策	20
	イベント開催前後の来場者のスムーズで安全な動線の確保	20
	地震等災害に備えた防災対策	20
	LCC（ライフサイクルコスト）の縮減策	20
	効果的な住民説明	10
見積経費	見積金額	5
	見積金額を抑えるための工夫	5
地理的条件		10
合計		190

４　審査の講評

二次審査委員会における、各提案者に対する講評は次のとおり。

（１）候補者（梓・みやび設計共同企業体）

基本計画の内容をよく理解しており、教育的配慮や高さの確保など、基本計画の内容に忠実に対応している提案であり、高評価につながった。

各種動線や施設配置も緻密に計画されており、完成後の施設利用のイメージがしやすい提案であった。

また、駐車場は基本計画に定める 250 台以上は確保した上で、無理に駐車台数を多くせずに、駐車スペースに余裕を持たせた提案が高評価につながった。

一方で、5 千人程度の集客があるイベント時に、どのような交通手段・交通ルートで 5 千人を施設に受け込むかの提案があるとより高評価につながった。

（２）次点者（Ａ社）

サブアリーナ、武道館、プールの配置をワンブロック化した提案は、各施設の役割が明確になっており、高評価につながった。

駐車場を立体駐車場にすることで、施設東側や北側に余裕が生まれるなど、空間の使い方の良い提案であった。

また、参加者の中で唯一提案内容に対するイニシャルコストへの言及があったことが高評価につながった。

一方で、サブアリーナと武道館が上下階に分かれることでの選手の動線や、大型バスの駐車場を敷地北側に設けることでの周辺の生活道への支障など、人や車の動線への配慮が不十分であった。

（３）３位（Ｂ社）

南北の駐車場の間に駐輪場が配置されており、車と自転車の動線が交錯していることから、動線への配慮が不十分であった。

また、メインアリーナ西側にメインアリーナと屋外一体利用もできる広場を設けた提案は、大胆で魅力的に映る内容であった一方、歩行者の動線や安全性の確保の観点から運用面での難しさが残る提案であった。

（４）４位（Ｃ社）

防災対策については、しっかり検討がされた提案であり、高評価につながった。

一方で、人を施設に集客する効果的な手法の提案が不十分であるとともに、実際の道路幅等と提案のあったイメージ図の間で差異があるように見え、提案内容の実現性と完成後の姿に不安が残る提案であった。

（５）５位（Ｄ社）

駐車場を半地下構造とすることによるイニシャルコストへの具体的な影響や試算の説明がなかった点や駐車場の浸水対策の提案が不十分であった。

また、１階床レベルを上げる提案は、防災対策としては一定期待できるが、近隣住民等への圧迫感につながる恐れが懸念された。